

本紙客員論説委員 下條正男



しもじょう・まさお 長野県出身。国学院大学院博士課程修了。1999年から拓殖大教授を務め、今年3月末で退官。現在は本

紙客員論説委員のほか、島根県立大と東海大の客員教授。島根県の第5期竹島問題研究会の座長を務める竹島研究の第一人者。71歳。

## 「一刀領談」

島根県の竹島資料室で10月4日から、島根県立大生4人が学生解説員を務めている。既に本紙で紹介されており、9月27日付の本欄で「竹島資料室の学生解説員」と題して、その意義について伝えていた。

## ディスカウントジャパン



始動を前に、報道機関向けに竹島問題について解説する島根県立大生＝10月2日、松江市殿町の竹島資料室

てくる5カ月前に鬱陵島は朝鮮領としていた。于山島に至っては、安龍福の密航事件後、朝鮮側の調査で鬱陵島の東約2キロにある竹嶼のこととされている。

独島体験館には、鳥取藩主と安龍福が対座するジオラマが展示されているが、それは捏造された歴史である。そのジオラマの前には幼稚園児から大人まで、さまざまな人が訪れ、安龍福の英雄譚に感動する。これが洗脳教育でなくして、何と云うのだろうか。

## 竹島資料室で再発見を

韓国の「聯合ニュース」（電子版）は「日本、大学生まで動員し独島（竹島の韓国名）の領有権主張…徐敬徳『愚かなことだ』」と報道した。記事の中で、韓国の広報専門家を称する大学教授、徐敬徳氏は「誤った洗脳教育をしてピュアな大学生を動員するという全く愚かなまねをしている」と批判しているが、韓国の反日感情を扇動する彼らしい反応である。

### ■異なる設置目的

韓国の「独島体験館」にも学生解説員があり、中高生が務めている。大学生が解説員をすれば愚かで、中高生の解説員を問題にしないのは偏見である。それに韓国の独島体験館と島根県の竹島資料室の設置目的は全く違っている。

竹島資料室では、江戸時代以来、山陰地方の生活圏の一部だった竹島との関係を示す資料が展示されてい

る。その事実を学ぶことが「誤った洗脳教育」「全く愚かなまね」とされるのはなぜだろうか。洗脳教育というのであれば、独島体験館の展示方式こそ「洗脳」に近いものがある。開設趣旨を読むと、「独島の領土主権を守る国民的な意志の結集と、青少年たちに独島教育の生きた場を提供するため」としているからだ。

独島体験館が「独島の領土主権」を守ろうとするのは、韓国側が1954年以來、竹島を不法占拠しているからである。それを正当化するため、古地図や文獻を展示し「独島は韓国領」と必死になるのは、犯罪者が行うアリバイ工作と同じである。

事実、独島体験館で展示されている古地図や文獻の中に、独島が韓国領であったことを示すものは何もない。韓国側が独島は6世紀から韓国領であったとする論拠も、江戸時代に鳥取藩に密航した安龍福の虚偽の証言が基になっている。それを中高生の解説員がいかに熱弁を振るって説明しても、安龍福が偽証した事実に変わりがない。

### ■誤った洗脳教育

密航した安龍福は、江戸幕府の命を受けた鳥取藩によつて追放されたが、帰還後、鳥取藩主と交渉して鬱陵島（現在の鬱陵島）と于山島を韓国領にしたと供述していた。しかし江戸幕府と対馬藩は、安龍福が密航し

徐氏には誠信女子大学教授の肩書があるが、「誤った洗脳教育」をしているのは独島体験館の方である。その現実を教壇に立つ身としてどのように理解しているのだろうか。日韓関係で重要なことは、歴史の事実を事実として受け止めることである。竹島資料室はそのために開設されている。徐氏は「旭日旗」「日本海呼称問題」などでも日本批判を繰り返すが、その主張に歴史的根拠がない。もう一度竹島資料室を訪れ、大学生の解説員からの説明をよく聞いて、日本をおとしめる「ディスカウントジャパン」から、再発見する「ディスカバージャパン」に学び直してはいかがだろうか。 〓 随時掲載 〓